

令和8年度 愛知県小中学校PTA連絡協議会情報交換事業
兼 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会単位PTA役員情報交換会 反省記録

郡市P名（蒲郡市小中学校PTA連絡協議会） 記録者（福井 清司）

1 日時・会場

令和8年9月5日(土) 13:30～15:40 蒲郡市民体育センター（大会議室、第2・第4・第5会議室）

2 参加者（53名）

(1) 来賓・基調講演講師・愛知県P連関係者

愛知県教育委員会東三河教育事務所指導課 主査 中村 一哉 様（助言者）

蒲郡市教育委員会生涯学習課 課長 市川 貴光 様

三河小中学校PTA連絡協議会 顧問 鈴木 貴晶 様（基調講演講師）

愛知県小中学校PTA連絡協議会 副会長 内村 浩光 様

会計 稲垣 純子 様

会計監査 浅井 竜司 様

事務局次長 立川 恵理 様

(2) 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 役員（14名）事務局（5名）

(3) 単位PTA会長・副会長等（27名）

3 運営方法について

(1) 日程（受付 13:00～13:30）

ア 開会行事 13:30～14:00（司会 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 副会長 山本 成竜）

- | | |
|---------------|-----------------------------|
| ① 開会のことば | 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 副会長 小田真美代 |
| ② あいさつ | 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 会長 細井 洋司 |
| | 愛知県小中学校PTA連絡協議会 副会長 内村 浩光 様 |
| ③ 来賓・講師・県P連紹介 | 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 会計 愛葉 猛 |
| ④ 基調講演 | 三河小中学校PTA連絡協議会 顧問 鈴木 貴晶 様 |
| ⑤ 情報交換説明 | 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 書記 福井 香奈 |

イ 情報交換 14:10～15:10（司会 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会役員）

【話し合いテーマ】

- ① PTA役員選出について（我がPTAの工夫他）
- ② PTAの存在意義について（もしもPTAの組織がなかったら…）
- ③ PTA役員の魅力・メリット等について（全保護者に伝えたいこと…）

ウ 閉会行事 15:20～15:40（司会 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 副会長 山本 成竜）

- | | |
|----------|--------------------------------|
| ① 指導講評 | 愛知県教育委員会東三河教育事務所指導課 主査 中村 一哉 様 |
| ② 諸連絡 | 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 書記 市川 一樹 |
| ③ 閉会のことば | 蒲郡市小中学校PTA連絡協議会 副会長 小田真美代 |

(2) グループ編成の方法等

- ア 単位PTA役員を6グループ(小学校4グループ、中学校2グループ)に分け編成した。
- イ 市P連役員がそれぞれのグループの司会進行を担当した。
- ウ 県P連役員もグループに入り情報交換に参加した。
- エ 各グループの話し合い内容については全体発表を行わず、後日、HP・書面等で紹介する形とした。

4 基調講演の概要

【講師 三河小中学校PTA連絡協議会 顧問 鈴木 貴晶 様】

P＝パチンコ、T＝タバコ、A＝アルコール(本当の略とは異なるが・・・)。その昔は寛容的であったものが、今はネガティブなイメージを持たれる。PTAも然り。後ろ向きに捉えられる時代である。

共働き家庭の増加。部活動廃止。学校がすべて受け入れるという時代ではなくなりつつある。PTA役員に求められることは増える。小学校では子ども会との兼ね合いもある。コロナの時代を経て、全国的にPTA活動が縮小されたのに伴い、PTAに対するネガティブな情報も増えた。

PTAは日本一大きな社会教育団体。学校・市・県・国に物が言える団体。個人が文句を言えばモンスター、PTAなら親の声を届けられる。給食の始まりもPTAから。PTAの声を受け、愛知県は全国に先駆け35人学級を実現。蒲郡市は市P連・校長会・教員組合の三者で市に要望書を提出。市内全小中学校体育館のエアコン完備は要望書により実現。連絡アプリ「コドモン」の導入もPTAの声によるもの。

県P連安全互助事業は、年間40円の負担で多大な補償が受けられる。分母が大きいからこそ可能に。

PTA役員の負担が大きいなら、見直しをすればよい。PTA役員数を3人に減らした学校もあるが、不都合はないとのこと。すべては子どもたちのため。やってよかったPTAを目指すべきではないか。

5 指導・助言の概要

【助言者 愛知県教育委員会東三河教育事務所指導課 主査 中村 一哉 様】

PTAは地域での学びを支える大切な存在。理念は「子どもの幸せのために」、魅力は「一人の百歩より百人の一步」、参加することで学校理解が深まり、子育ての仲間が増える。子どもにとって安心感が生まれる。PTAの役割は家庭と学校の橋渡しとネットワーク。役員選出・運営の柔軟化を。正解は一つではない。学校・地域に合った形の模索を。これからは負担軽減と活動の「見える化」が求められる。

PTAの原点は「すべては子どもたちのため」。舞台裏の演出家として学校を安心安全で楽しい場に。保護者の得意や興味を活かし「やってみたい」を形に。運営は「できる人が、できるときに、できることを」が基本。柔軟なスタイルが子どもたちを支える力に。前例踏襲から脱却し活動の見直しを(ICT活用、必要な活動に絞る等)。任意団体として加入意思確認、説明会などで意見共有、個人情報・会費扱いの透明化を。

「何をするか」ではなく、「何のためにするか」。理念の確認を。他校のアイデア・事例から学ぶ(情報交換)。共通する姿勢は、「できるときに、できる人が、できることを楽しく」。コミュニティ・スクール、地域学校協働活動等、学校と地域が一体となる仕組みづくりが進む。PTAも連携し、地域とともに学校づくりを。

PTAは学校、保護者、地域をつなぐ大切な存在。より参加しやすく、意義を感じられる活動への進化を。

6 参加者の意見・感想など

(1) 情報交換の記録より

ア PTA役員選出について

○コドモンによる事前アンケートで、やれる人を探す。役員のメリットを伝え、やり手を増やす予定。

- 地域特性、地域の行事による人間関係を活かして次年度役員への声掛けをしている。
- 小学校と中学校で役員決め順番を交互にしている(小中で公平になるよう)。地区幹事なし。
- 常会ごとに数名出して役員を決めるが、予め前任者が次にやって欲しい人に声をかけていて、その方が立候補により短時間で決まる。
- 名簿に「○」をつける投票制。現会長が「○」の多い方に電話で打診。もめることはない。
- 一番上が選ばれやすいので、投票名簿はランダムに並べている。/唐笠連番状のものにしている。
- 児童名簿に投票。「○をつけてもらえた」とポジティブに捉えてくれる親御さんもいる。
- 学級幹事を廃止し役員の数を減らすよう話し合っている。/役員を減らし今は5人しかいない。
- 会合の頻度を少なくし、土曜に実施することで、負担が少なく感じられるよう工夫している。
- くじ引き、ジャンケンで決めるが、不満が多く出た。
- 例年だと会長は指名、副会長等は立候補。決まらない場合はあみだくじで、23時までかかった年もある。先入観で皆がPTA役員になるのを嫌う人が多い。
- 指名制のハードルの高さがネガティブな印象。上手にシステム化している所はもめていない様子。

イ PTAの存在意義について

- 子どもたちの困りごとを学校に伝える場。/役員になり、子どもの声を伝える場となっていることがわかった。
- PTAがなければ、学校運営の相談ができなくなってしまう。その分、役員の任命責任がある。
- 学校側の考えと児童・保護者の考えをすり合わせ、より良い環境づくりへとつなげることができる。
- 地域とのつながりを作れるのがPTA。
- 学校側がPTA役員を相談相手にしてもらえれば、学校側の負担を軽減できると思う。
- PTAの存在は大きくないかもしれないが、PTAの印象の問題が大きくて、活動が苦ではなく親の代から「面倒ごと」を刷り込まれている。学校の先生方と楽しくPTAに向き合いたい。
- 存在意義はよくわからない。でも、子どもたちのために学校から頼られ「みかん先生」を引き受けた。子どもたちのために楽しく、良い環境でと思う。大変だが、やってよかったと思う。
- 役員をやらなくても…、PTAをなくしてもいいのではと思っていた。最終的には存在意義がわからない。今は引き受けた役割としてPTA役員をしている。
- PTA役員は学校から言われたことをやる人だと思っていた。去年何をやり、引継ぎはどうなっていて、意見が反映されているのかもわからない。(みんなの意見をまとめるのも難しいが)。前年やったことを繰り返しているだけになっている。/話し合うというより、行事の手伝いというイメージ。

ウ PTA役員の魅力・メリット等について

- 資源回収の日(2回)、PTA役員で給食を食べた。(揚げ若鳥のレモン煮等、人気メニュー)
- 体育大会(運動会)、合唱コンクール、卒業式などの行事のとき、PTA役員だけ駐車券、優先席などが用意される学校がある。/一度役員をやると、いつでも卒業式で特別席がもらえる学校もある。
- PTA役員になると、地区のいろいろな行事に呼ばれるので、いろいろなことに参加しやすくなる。
- PTA役員になると、困ったときに先生とコミュニケーションをとりやすい。/会合で学校に行くので、先生と話す機会が増えた。/先生とのつながりができる。学校へ意見を伝えられる。
- 学校運営に積極的に関わりやすくなる。考えや意見(必要だと思う施策の提案)を学校・市・県へと伝えることができる。/自分の声が学校の改善につながる。

- 先生方の大変さがわかる。先生のために発言できる。
- 役員になると、人から知られるようになり、声をかけてもらえる。/他校の人に知り合いができる。
- 地域の人と関りがもてる。/学校でも家庭でもない場所での関りができる。(通学路での立ち番等)
- 子どもの安心安全に直結する仕事ができる。/貢献していることで満足感が得られる。/子どもに頼れる大人の一人として認識される。
- いろんな人とつながりができる。ママ友ができた。/人とのつながりができて、学校行事に参加するとき、居心地がよくなる。
- 刈谷市ではPTA役員によるあいさつ運動があり、その後、学校内を見学してもいい。

エ その他

- 学校運営協議会に子どもを参加させて、意見を吸い上げる。
- PTAの会合を授業参観後に設定すれば、集まりやすくなる。
- 土曜の午前、行事の後に会合を設定。今後、平日の夜に変更予定。
- 教師の立場で「教える」だけでは子は育たない。地域の方たちが支えている現場(体育祭のグラウンド整備等)を見て、すばらしいと思った。
- 下の子がいと、夜集まるのは厳しい。
- 前年度に予定が決まっていると、日程通りに参加できない場合がある。

(2) 事後アンケートより

ア 実施時期について

9月実施で良い 21名 / 夏休み前がよい 6名 / もっと遅い時期がよい 0名

イ 基調講演について

とても参考になった 12名 / 参考になった 15名 / 参考にならなかった 0名

【基調講演の感想等】

- OPTAのあり方、目的についてわかりやすい説明で良かった。
- OPTAが分母の多い「物申せる団体」だということを知ることができてよかった。
- 話を聞いて、PTAのことがよくわかったし、役員をやることに対して前向きな考えをもてた。もっと早い段階で聞きたかったなと思う。
- OPTA役員として信念をもって学校に向き合われている姿に感銘を受けた。
- 「ものが言えるPTA」学校のため、子どもたちのために考えをもち、伝える大切さを学んだ。
- 講師のざっくばらんで肩肘のはらない講演がこちよかった。
- いろいろ知らないことを知ることができた。

ウ 情報交換(グループ協議)の時間について

1時間でよい 22名 / もっと時間が欲しい 4名 / もっと短くてよい 1名

エ 情報交換(グループ協議)のテーマについて

- ①PTA役員選出について よかった 27名 / よくなかった 0名
- ②PTAの存在意義について よかった 26名 / よくなかった 0名
- ③PTA役員の魅力・メリット等について よかった 25名 / よくなかった 0名

【テーマとして扱って欲しい内容】

○PTAの活動内容について(各学校でどのような活動をしているのか)

○P(親)とT(教師)のつながりについて

○PTAの役割、必要性について周知させる方法について

オ 情報交換(グループ協議)の話し合い内容について

とても参考になった 14名 / 参考になった 13名 / 参考にならなかった 0名

カ 当日資料(各学校事前アンケート結果のまとめ)について

とても参考になった 12名 / 参考になった 15名 / 参考にならなかった 0名

【こんな資料があるとよい】

○各学校で実施されている「PTA役員の特典」があれば、記してあるとよいと思った。

○情報交換でPTA役員のメリット(体育祭、卒業式の特等席等)があるということを知ることができたので、そういった資料がもっとあるといいと思う。

○これはお勧めだよという情報(やって良かった、あつて良かった…)。

○PTA活動の良さ、メリット、成功事例

キ その他

○他の小中学校の話を聞く機会がないので、とてもいい会になった。

○テーマとは別に困っていることを自由に発言する時間があってもよかったと思う。

○ここで得た情報(特にPTAとは、存在意義)は、すべてのPTA会員に伝わるのが大切だと思う。

○情報交換前はPTAの存在意義について知らなかったが、話を聞いて理解することができた。

○他校の活動の様子や役員選出の方法など、とても参加になった。自校に持ち帰り活かしていきたい。

○他地区のPTA運営について知ることができ、とても有意義だった。

○各校のいろいろな悩みが聞けてよかった。

○PTAがなくなったらどうなるかを具体的に知る機会が欲しい。

○部活動のあり方について、現状を聞きたかった。

○講演会は参考になったが、話し合いは時間を短縮するか廃止して欲しい。今回の情報交換の場は不要と考える。

(3) 市P連役員反省より

○皆さん仕事がある。できる人が、できるときに、無理をせずに…。このことを強く伝えたい。

○講演会は聞きやすい話でよかった。蒲郡市と他地区との違いを知ることができたのもよかった。

○参加するメンバーは毎年変わるのだから、テーマは同じでよい(永遠のテーマでよい)。情報交換会は他校の状況を聞くいい機会である。

○選出方法でPTA役員の印象が変わるように思う。ネガティブなイメージの選出方法だと役員を受けろのに後ろ向きになりがち。「得票数の多い方に依頼する」という方法の方が、「この人なら大丈夫だと思ってもらえた」等、ポジティブな印象をもってもらえるような気がする。

○事前アンケートのまとめは価値ある資料だと思う。自校のPTAの見直しの参考にしたい。役員数、選出方法、事業内容等、改善した点や削減したもの(なくしても問題のないもの)などが具体的に書かれているととてもいい。資料を話し合いのテーマとつなげるとよい。

- 行事の特等席など、PTA役員をやってよかったとアピールできれば、やる人は増えるのでは？
- 学校同士のつながりはあまりないので、他の学校の様子をみんな知りたがっていると思う。
- 熱意をもった方の話には人に伝わる力があるように感じる。
- 準備された議事を承認するだけの役員なら何のためにやっているのかわからない。自分たちでいろいろ考えを出し合える役員でありたい。
- 2年任期の学校もあるようだが、1年だけでは短すぎてできないことが多い。次の方に確実に伝えていくことが大事。
- 情報交換会での話し合い内容をいかに単Pにフィードバックしているかが大事。

7 成果や課題など

- ネガティブなイメージで捉えられがちなPTAをポジティブに捉える機会とすることができた。
- 基調講演を通して、「物申せる団体」としてのPTAの存在意義を改めて考えるきっかけとなった。
- 役員選出に関して、悩みを語り合う段階から、状況改善のための各校の工夫を紹介し合う段階へと進めることができた。
- PTA役員の魅力・メリットについて予想以上に多くの意見が出された。他校の状況を参考にしつつ、役員がより前向きに活動に取り組めるようになることを期待したい。
- ここで得られたことを参加者のみにとどめず、単位PTAの全役員、更にはこれから役員となる方々にどう伝えていくかが今後の課題である。